

## 平成 25 年度「使える英語プロジェクト事業」公開授業及び研究協議会の報告書

市 町 村 名 寝屋川市

実践研究校名 第五小学校

【公開授業】公開日：平成 25 年 11 月 22 日

対象学年：第 6 学年

(教材・教科書名) 得意なことは？ (寝屋川市国際コミュニケーション科シラバス) (単元名) 「できることを伝えていこう」	(本時の指導の目標)  外国の人に対して、自分のできることについて伝えるため表現を、グループで協力して工夫する
---	---

(本時の授業において工夫した点)

- NET の先生に自分のできることを伝え、やり取りをする場面を設定した。
- 表現の幅が広がるように、グループで協力して作ったスキットカードを使用した。
- できることがより分かりやすく伝わるように、実際に道具(ボール・一輪車など)を使用した。

(授業後を終えた教員の感想)

- 子どもたちは、いかに会話を続けるかをユーモアも組み込みながら考えた。しかし、実際に道具があることで、それを使おうとするあまりに、会話がおろそかになる場面も見られた。
- 最後のふりかえりで、児童自身がそのことに気づき、道具がないほうが会話がスムーズに進むと考えるようになったのは、今後、会話を考えていく上で意義あることであった。

【研究協議会】

(テーマ) ゴールを明確にした課題解決型授業	(指導・助言者) 関西外国語大学 教授 中嶋 洋一 氏
---------------------------	-----------------------------------

(研究協議会で出された意見) (注) 公開授業の討議ではありません

現在、寝屋川市としては、教師主導の「プログラム型」から、児童がゴールに向かって自分たちで考え解決していく「プロジェクト型」に移行中である。今後も児童が主体的に考えていく「プロジェクト型」を進めていく。

(まとめ)

1. 児童は、ゴールが明確化されると主体的に考え、活動するようになる。
2. 教師は、細かく説明するのではなく、ヒントだけ与え、児童が考える場を作る。